

支部だより

関西支部

中南米音楽を味わいながらアットホームに

大塚 圭一郎 (F平9)

設立から3年目を迎えた東京外語会関西支部総会が4月19日、大阪市北区の東洋ホテルで開かれ、大阪外国語大学助教授の千葉泉氏 (S昭57) が自らのギター演奏を盛り込んで中南米について講演した。この一風変わった催しを実現したのは、大阪外大で学ぶ市川伸彌・関西支部幹事 (S昭36) が千葉氏の講義を受けているため。千葉氏の温厚な人柄と、講義で披露する玄人はだしのギターの腕に魅せられた市川幹事が、先輩かつ教え子というプリビレッジを生かして交渉成立を勝ち取った。出席者は69人。千葉氏は、中南米音楽にひかれた理由を「大学院時代、東京外大の先輩からチリなどのレコードを借り、社会問題に送り込むムーブメントを体現する歌に興味を持ったため」と語る。研究者への道りでは紆余曲折があったものの、相談した元東京外大教授の清水透氏 (S昭41、現日本女子大学教授) は「音楽を中核にして地域の人とふれあえる研究者になればいい」と背中を押してくれたという。その助言に添った結果、ギターは千葉氏の片腕へ昇華したようで「フィールドワークでは現地の人とのコミュニケーションで大きな力を発揮しており、講義にはスペイン語以外の学生も来てくれる」という。中には「演奏時間以外は寝ている学生もいる」と明かし、会場の笑いを誘った。このように中南米音楽が人々の心をつかむのは美しい旋律に加えて、「インディオや征服した欧州人、奴隷として連れてこられた黒人などさまざまな民族の間で貧富の差が激しい。社会を良くするのに作曲家や演奏家らが才能を生かしたいという意識が強いためだろう」と指摘する。熱唱したキューバの歌「グアンタナメラ」にある「わが地の貧しい人々とともに私はこの運命を賭けよう」という歌詞はそれを証明していよう。千葉氏の教え子を変え

ての演奏はラテン系にふさわしいバイタリティーにあふれ、出席者も手拍子で応えた。千葉氏は「国際協調の前提で、日本が愛されながら発展する道がある。言語を習得して現地の思いを深く知る外語大の役割は増えこそすれ、減ることはない」と来年の国立大学法人化後を明るく展望した。

また、3年連続で駆けつけてくださった東京外語会の中村博理事長 (E昭29) は、東京外語会が4月に中間法人の法人格を取得するまでを振り返った。一橋大学や東京工業大学など他の国立単科大学の同窓会に比べて法人化が遅れた背景を「外語は元をたどれば政府が設立した学校で、武士の子どもがたくさん入るなど恵まれすぎていたのではないかと推察してみせた。大阪外国語大学同窓会「咲耶会」の有瀬尚憲会長代理も出席し、東京外語会との結び付きを「東京に1988年から3年間単身赴任した際、東京外語会のFLS会でホットな講話を聞くなどの交流をさせていただいた」と述べた。総会后、例年通り懇親会へとなだれ込み、石原隆良・東京外語会支部連絡委員長 (D昭31) の発声で幕を開けた。余興の部では、支部最高齢の94歳の相原春雄氏 (C昭6) が恒例となった格調高い詩吟で魅了し、森谷輝司氏 (S昭18) もギターを抱えて美声を披露するなど大いに盛り上がった。旧交を温めたり、1年ぶりの再会を祝したりする場面があちこちで見られ、アットホームな雰囲気のまましばしのお別れとなった。来年は4月17日、大阪市内で開催する予定。(共同通信社大阪支社経済部記者、関西支部幹事)

ロンドン支部

お花見 in REGENT'S PARK

安井純子 (C平1)

6月21日Regent's Park内のQueen Mary's GardenにてOutdoor外語会が開催されました。およそ4万本を超えるバラが満開を迎えており、

そこかしこに花吹雪ならぬ優美なアロマの香りが漂います。花よりチップスと言わんばかりの元気な子供たちも一緒に芝生の上でリラックス、と思いきや大縄跳び大会となり、大人衆のビール腹防止の軽い運動として?にぎわっておりました。

2次会は公園の北側を巡るREGENT CANALに浮かぶ中国料理「舫膳」“Feng Shang”にてOn Boardの宴会。家族や友人を囲む輪が広がります。お開きの9時半でもまだ日は高くチャリンコで帰宅された蓮見さん。夏至の日のヘルシー&ナチュラルな外語会は夕暮れの涼やかな風の中、幕を閉じたのでした。出席者は以下25名。原田 豊 (S昭40)、蓮見幸輝 (E昭41) 荻野倬也 (F昭46)、酒井一雄 (E昭48)、ティール岩津桂子 (E昭51+家族1名)、小倉正広 (D昭57)、小倉かおる (R昭59+家族2)、持田譲二 (D昭59)、石丸慎司 (S昭61)、安井純子 (C平1)、福田昭久 (D平2+家族2)、岩本克巳 (Po平2)、伊藤暢人 (R平2)、安田昌平 (I平4)、今居美月 (E平8+友人1)、茂野玲 (E平8+友人1)、森丘直子 (R平9) 有澤知乃 (C平10)。以下は今年帰国。新天地でのご活躍を祈念します。和田紀子 (E昭51)、沢田博史 (In昭62)、渡邊麻里 (H平4)、有澤知乃 (C平10)、吉田沙織 (B科在学中)、岩田紀子 (H科在学中)

フランクフルト支部

青木久恵 (D平3)

去る6月3日、フランクフルト支部では実に6年ぶりの外語会が開かれました。以前にフランクフルトに駐在された古川信孝氏 (D昭32) をゲストに迎え、長期に亘り活動を行っていなかったにも拘らず合計9名の方が集まりました。6年前と比較しメンバー構成に大きな変化があり、参加者のうちの6名が女性で、皆ドイツで家庭を持ちドイツに「定住」予定の方でした。フランクフルトでは近年日本企業の縮小、撤退が相次ぎ、日本人駐在員の総数が減っておりますが、外語会にもそうした厳しい経済情勢が如実に反映されているようです。また、フランク

フルト支部のもう一つの特徴は、フランクフルト郊外に住む方の比率が高まっていることです。このため会合がなかなか開きにくい面も確かにありますが、反面、フランクフルトの南北に離れ、外語会がなければ恐らくお目にかかることもなかったであろう卒業生の方々とは知り合いになることが出来、様々な情報交換ができることは非常に有意義なことです。今後フランクフルト支部でも「定住」組の方々を核として世界各地の外語会支部を見習い定期的に会合を開きたいと思っております。

マニラ支部

正野きょう子 (Ph平8)

2003年5月3日、濱田英彦公使 (F昭53) の送別会を兼ねてバサイ市の日本料理屋“漁華”で懇親会が開かれました。日本料理を味わいながら、小林慎治支部長 (S昭31) の進行で全員が自己紹介と近況報告をし、濱田公使のマニラでの任務を終えられるにあたってのスピーチもありました。今年3月にイロイロ市とマカティ市RCBCホールでの公演を終えた東京外語大フィリピン語科民族舞踊団の主要ダンサーで、こちらのプロの舞踊団にも参加している現在フィリピン大学院生の並木香奈美さん (Ph平10) も出席しました。今後、東京三菱銀行の武井幸男さん (F昭50) を中心としてマニラ支部の先輩達からも舞踊団のフィリピン公演を支援いただけることになりました。今後もフィリピン語科の後輩達のフィリピンの大学への留学生の増加、またフィリピンには永住権が付与される退職者居住ビザがあるため、退職後フィリピンに長期滞在される方の増加が予想されます。新しくフィリピンに滞在されることになった方、是非次回の懇親会へご参加ください。出席者 井上裕夫 (S昭49)、柿本勝博 (E昭59)、斎藤勝春 (S昭43)、高野邦夫 (Ph平10)、辻 麻利 (Ph平14)、中原秀夫 (U昭48)、松尾研児 (Th平4)、源一秀 (C平3)、源 美由紀 (C平8)、矢吹 清 (E昭48)